



# 「農家の嫁になって良かったね。」

健康を考える会(下益城郡小川町)



森田加代子さん

緑豊かな山あいの地、小川町大岩地区。ここに有機農業を実践する。健康を考える会ができて十年目。農家の主婦十人からなるこの会は、森田加代子さん(三三〇)をリーダーに、農業を使用しない露地栽培の野菜を作り続けている。

会の前身は「農家の嫁になって良かったね」といえる生活をしたいとの思いで昭和五十二年に結成した「若妻会」。「毎日の農作業や子育てに追われるだけではなく、農業とは何かなどの疑問を抱いて月一回の学習会を始めたのがきっかけです。」と森田さん。

農家に嫁ぎ、農業の使用や農家でありながら野菜の自給ができていない事

実を知り愕然とした。これで良いのかという問いかけの中から有機農業との出会いが生まれ、まず家庭菜園を作ることからスタート。「最初の頃は周囲の農家からの反発もありましたし、家庭内でもなかなか理解が得られませんでした。でも、子供たちに安全なものを食べさせたいという強い思いが通じ、今では家族ぐるみで取り組んでいます。父や母に昔ながらの農法の手ほどきを受けたりして家族のコミュニケーションも密になったんですよ。」



日曜日の朝市

虫食いだらけの野菜を前にくじけそうになった時もあるが、専ら堆肥づくり、土づくりに精を出し、作り続けて三年後には固定客を獲得。「虫食いもあれば形が悪いものもあるし、値段もいくらか高い。けれども有機農業を理解し、新鮮で安全な食べ物をと願う消費者の方に支えられました。」こうして家庭菜園から事業への第一歩がスタートした。当初、周囲には、来客をもてなすには店から買ったものが上等等という風潮があった。そこで農家の良さは新鮮な素材を使った手作りのものが出せる点であると、野菜づくりに加えて野菜料理やおやつづくりの講習を頻りに開いて、一つ一つを確実に自分たちのものにしていった。

地域の村おし大会をはじめ「米料理コンクール」、「生活改善実績発表大会(全国大会)」などにも積極的に参加。多くの仲間との交流を深めるとともに、より広い視野で自らの活動を見つめている。都市部の消費者たちと触れ合う中で、農村の良さを見直すこともしばしば。「確かに農業は大変ですが、自然の中で働くという喜びがあります。もつと農家の良さに目を向けて、子供たちにもその良さを残し、伝えていきたいですね。」

熱意と信用を武器に徐々に顧客数を伸ばし、菜園面積わずか二丁三アール



田植え(消費者とともに)

からスタートした野菜作りも折り返りの自然食志向ブームも手伝って、今や五十丁百アール。栽培する野菜も五十数種類と大躍進。生協とのつながりもできた。「小川の野菜はひと味違う」という消費者の声を聞く時、本当に続けて良かったと思います。

週四回の野菜の出荷、会員の持ち回りによる日曜日の朝市、さらに月二回の農業簿記の勉強会と、メンバーの毎日慌ただしい。だが、「野菜作りが本当に好きなんです」と屈託なく笑う森田さんをはじめ、メンバーの大半は非農家の出身だ。かつては消費者であった立場から安全な食べ物をと願う彼女たちのパワーが、有機農業の一つの事業へと高めたのかもしれない。

「いずれは手作りの味噌やしょうゆ、漬物も供給したいし、パソコンの導入も考えています」と、健康を考える会の夢は限りなく広がっていく。



毎月1回の例会